



100年の責任。

つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

*The Next Perspective*

株 主 通 信

平成30年2月



YBHD NEWS | No.53



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911



代表取締役社長

# 荒井 久司

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに、株主通信「YBHD NEWS」第53号をお届けいたします。

我が国経済につきましては、地政学リスクや各国の経済政策が及ぼす影響などの不安要素を払拭できていないものの、企業の好業績に後押しされ景気は緩やかな回復過程をたどっております。

その中でも、建設投資につきましては2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた都市部を中心とする再開発プロジェクトが進んでおり、いざなぎ景気を超える長期間の景気回復を支える原動力のひとつとなっております。

当社グループの主要事業であります橋梁事業における新設橋梁の発注量は、これまでと同水準か、やや減少傾向で推移するものと思われませんが、引き続き新設橋梁事業でのシェア維持・アップに取り組んでまいります。

また、老朽化が進む社会インフラの維持・補修が大きな課題となっている中で、橋梁保全事業が拡大しております。そのため、長期的なプロジェクトとして期待できる大規模更新・大規模修繕事業へ積極的に取り組み、検査路や常設足場などの当社グループの橋梁関連製品の受注を積み重ねてまいります。

エンジニアリング関連事業につきましては、高品質・低コスト・短納期を特長とするシステム建築事業の受注高が年々拡大しております。今後も東京オリンピック・パラリンピック関連施設や各種物流施設など旺盛な市場が期待できるため、更なる成長に努めてまいります。シールドトンネル用セグメントにつきましても、一定量の製作ボリュームを見込むことができるため、受注に向けた施策を強化してまいります。

当社グループの業績は好調に推移しており、平成30年3月期の連結業績予想を上方修正いたしました。今後も各事業における施策を検証しながら、働き方改革を推進しグループ全体としての成長と事業効率の最適化を図ってまいります。

今後も役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年2月

平成30年1月29日に、平成30年3月期第3四半期(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介いたします。

### 連結経営成績(累計)

	平成30年3月期第3四半期	平成29年3月期第3四半期
売上高	90,532 百万円	83,974 百万円
営業利益	8,019 百万円	6,563 百万円
経常利益	8,181 百万円	6,717 百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,404 百万円	1,962 百万円

### 【連結経営成績に関する定性的情報】

当社グループの当第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年12月31日)における受注高は、1,171億円となり、前年同期比で83.0%の増加となりました。

セグメント別の受注高といたしましては、橋梁事業637億6千万円(前年同期比106.1%増)、エンジニアリング関連事業492億4千万円(同68.6%増)、先端技術事業40億9千万円(同6.6%増)となりました。

決算面につきましては、当第3四半期累計期間の売上高は905億3千万円(同7.8%増)、営業利益は80億1千万円(同22.2%増)、経常利益は81億8千万円(同21.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は54億円(同175.4%増)となり、いずれの数値も第3四半期累計期間として過去最高を更新いたしました。

セグメント別の売上高といたしましては、橋梁事業の売上高は493億6千万円(前年同期比3.2%増)と堅調に推移し、営業利益は39億4千万円(同14.2%増)となりました。

エンジニアリング関連事業につきましては、システム建築事業の好調な受注状況により売上高は362億5千万円(同12.3%増)、営業利益は38億2千万円(同20.1%増)となりました。

先端技術事業につきましては、精密機器製造事業の好調が続き売上高は43億4千万円(同33.2%増)、営業利益は7億4千万円(同47.7%増)となりました。

### 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

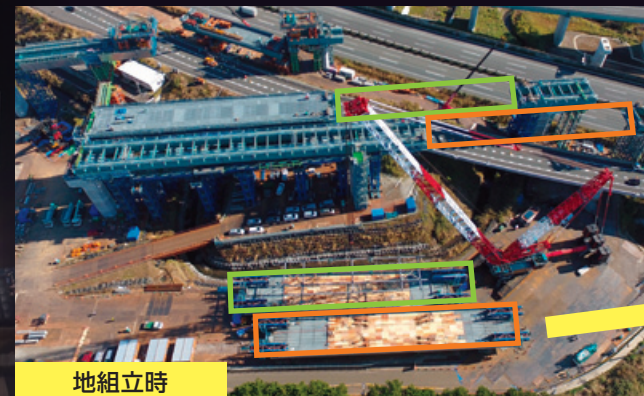
	平成30年1月29日発表	平成29年10月30日発表
売上高	130,000 百万円	130,000 百万円
営業利益	13,000 百万円	11,500 百万円
経常利益	13,100 百万円	11,600 百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	8,600 百万円	7,500 百万円
1株当たり当期純利益	208円00銭	181円40銭

### 【連結業績予想に関する将来予測情報】

平成29年10月30日に個別工事の損益改善と稼働率向上などによる全体的な採算性の底上げを想定し連結業績予想を修正いたしました。その後の受注などを加味し精査しました結果、営業利益等を上表のとおり修正いたします。



# 新駒門東第二橋工事にて夜間一括架設 ◀◀ 国内最大の1,350t吊りクレーンを使用！



地組立時



吊り上げ架設完了



工事名称	新東名高速道路 新駒門東第二高架橋他1橋(鋼上部工)工事
工期	平成26年2月19日～平成30年9月25日(工期延伸予定)
発注者	中日本高速道路株式会社
施工者	横河ブリッジ・JFEエンジニアリング・IHIインフラシステムJV
施工場所	静岡県御殿場市駒門地内
橋梁形式	鋼5径間連続箱桁橋(本線橋上下線) 鋼9径間連続箱桁橋他(Cランプ橋)

## 厳しい施工条件をチームワークで解決

本工事は、新東名高速道路の御殿場JCTから東京方面(圏央道)への延伸工事であり、本路線の開通により、東名高速と並行する道路として交通分散が図られ、慢性的な渋滞を緩和する効果が期待されています。

新東名高速道路、東名高速道路を跨ぐ高架橋であるため、新東名・東名本線直上については夜間通行止めを行い、一括架設を行います。

新東名上は、架設する橋桁が巨大であるため(最大吊荷重460t)、上下線架設時においては、国内最大の1,350t吊りクレーンを用いて架設を行います。また、Cランプ橋は施工場所が狭く、大型の重機を運び入れることが困難であるため、あらかじめ地組立した桁を新東名上へ旋回し、吊り上げ架設を行います。新東名上は夜間通行止めを行い、昨年11月に無事架設が完了いたしました。

東名本線上は架設地点から約500m離れた地点において、上下線とCランプ橋の3つの橋桁をそれぞれ約100m地組立し、大型自走台車で運搬した後、吊り上げ架設を行います(本年秋の予定)。



現場メンバーによる一括架設前の集合写真

現在は、次の東名本線上一括架設に向けての準備作業を進めております。当現場は様々な施工上の制約がありますが、設計や現場をはじめ関係するスタッフ全員が力を結集して、一つひとつ解決していきます。引き続き供用中路線に近接しての施工となるため、落下物、飛散物には万全の注意を払い、安全を最優先として工事を進めてまいります。

YBHDグループは、橋梁事業のリーディングカンパニーとして、引き続き社会インフラの整備に貢献してまいります。



## YBHDグループの技術を支える 「YBHD総合技術研究所第3実験棟」稼働



YBHDグループでは、東京外環自動車道をはじめとするシールドトンネル工事で必要となる鋼製セグメントの製作工事を受注しており、今後も多くの発注が見込まれています。この鋼製セグメント製作工事では、多くの性能試験が義務付けられていることから、性能試験を滞りなく行うために、YBHD総合技術研究所では3棟目となる新たな実験棟を平成29年6月に建設し、10月より本格的にセグメント関係の性能実験を実施しております。

### 第3実験棟の概要

#### 載荷試験状況



セグメント試験体

#### 【設備概要】

##### 第3実験棟建屋(yess建築)

平面寸法26m×15m×高さ14.6m

##### 天井クレーン

吊上能力15ton×1台、吊上能力4.8ton×1台、計2台

##### 反力床

幅12m×厚さ1.5m×奥行き18m

##### 試験機

載荷試験用フレーム、ジャッキ3基  
(載荷能力5,000kN[500ton)、最大試験体幅3.2m)



工場におけるセグメントの仮組立状況

棟内の設備は、大型の試験や載荷条件の厳しい実験にも対応できるように、天井クレーン能力や載荷設備能力を既存の実験棟よりも向上させております。性能試験は一般的に3種類の試験体で載荷実験が行われますが、第3実験棟の設備を使用すれば、3種類の載荷実験を同時に実施することができます。なお、実験棟の建屋にはYSCのyess建築が採用され、載荷試験用フレームはYBCが製作するなど、YBHDグループの技術が活かされています。

YBHDグループは今回建設された第3実験棟の設備を最大限に活用することで、引き続き社会インフラの整備に貢献してまいります。

## 反力床とは？

実験棟内には、最大5,000kN(500ton)の荷重がかけられる載荷フレームが3基、設置されています。

これらの載荷フレームはそれぞれ2本の柱と1本の梁で構成され、反力床と呼ばれる厚さ1.5mの鉄筋コンクリート製の床に、柱1本当たり8本の直径36mmのアンカーボルトで固定されています。

この反力床には、アンカーボルトを固定するためのネジ付きの穴が694箇所、設置されており、載荷フレームを任意の位置に固定することができます。



反力床



反力床内部の構造。  
694箇所のボルト穴を組み合わせることで、様々な位置や方向に試験機を設置することができます  
(写真は実験棟建設中の写真です。)

### セグメント施工例



施工例  
1

#### 六地蔵トンネル(YCBC受注工事)

平成16年に開業された京都市地下鉄東西線の東側に位置する六地蔵駅付近のトンネルです。このトンネルは大きく四角いため、鉄とコンクリートの長を活かした合成セグメントが採用されました。六地蔵駅から発車すると、車窓から目にすることができます。



施工例  
2

#### GINZA SIX地下道(YCBC受注工事)

平成30年1月に開通した歩道トンネルです。東京メトロの銀座駅とGINZA SIXを結び、通行する皆様を雨や風から守っています。銀座駅のA2出入口から地下に入ればすぐ、トンネルの天井の左右にセグメントがご覧いただけます。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、
交付株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063
電話お問い合わせ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他 やむを得ない事由によって電子公告による公 告をすることができない場合は、日本経済新 聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="http://www.ybhd.co.jp/">http://www.ybhd.co.jp/</a>

## ■YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス

グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ

橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造



株式会社 横河システム建築

システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ

橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 榎崎製作所

橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報

情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ

不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイ・シー・イー

橋梁等構造物の総合エンジニアリング



Yokogawa Techno Philippines, Inc.



表紙の写真:新内浦大橋

所在地:福井県大飯郡高浜町田ノ浦  
構造形式:単純下路式トラスランガー橋  
橋長:107m 鋼重:665t

高浜原子力発電所の水路上に位置する本橋は、原子力災害時の避難用道路として建設されました。若狭湾からも望めるように配慮された鮮やかな赤の色彩が特徴のランガー橋です。近海の若狭湾では日本海が育てた豊富な海の幸に恵まれ、アジやトラフグの漁場としても有名です。



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表)

<http://www.ybhd.co.jp/>

